

『 自分もよく 相手もよく 』

藤枝市立葉梨小学校

1 ピア・サポート活動年間プログラム

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	重点目標	生徒指導の柱	研修 (授業)の土台	学級の課題・実態に応じた プログラムの活用(全4回)	職員研修
4月	・1年生を迎える会 ・遠足	心つよく心やさしく生活する子 合い言葉 自分もよく相手もよく	生徒指導の柱 積極的な生徒指導	研修 (授業)の土台 どの子にとっても居心地のよい学級	学級の課題・実態に応じた プログラムの活用(全4回)	特別活動部会 職員会議 ・積極的な生徒指導と本校ピア・サポートの共通理解
5月	・運動会					研修 提案授業をもとにめざす学級・ 授業像の検討・共通理解 ・人間関係づくりプログラムの配布 職員会議
6月	・ペア顔合わせ ・ペア遊び					学校掲示の作成
7月	・児童集会					特別活動部会 実践のふりかえり
8、9月	・陸上選手を励ます会 ・ペア遊び					夏季研修・特別活動部会 人間関係づくりプログラム活用状況と効果の検証
10月	・親善音楽会に出場する 4年生を励ます会 ・校内音楽会 ・ペア遊び					職員会議
11月	・葉梨中の生徒の読み聞かせ ・ペア遊び ・児童集会					
12月	・ペア遊び					特別活動部会・職員会議 実践のふりかえり
1月	・ペア遊び ・百人一首大会					
2、3月	・6年生に感謝する会 ・ペア遊び ・ペアに感謝する会					特別活動部会・職員会議 教育課程 今年度実践のふりかえりと来年度のピア・サポートに向けて

2 本校のピア・サポート活動の紹介

1. ペア活動（提言1、5）

子ども同士の活動の中で、支え合う・関わ
り合う力を育むために、ペアグループ活動を
行っている。毎月行われるペア活動は、異学
年間のピアサポートを活性化させている。

上級生は、どのような遊びが下級生は楽し
んでくれるか考えたり、活動の中で下級生に
対して優しい言葉掛けをしたりする姿が見ら
れ、思いやりの気持ちをもつことができた。

また、下級生が遊びを考えて上級生と活動
する機会を設ける学年もあり、ペア活動の幅
が少しずつ広がってきた。

最後のペア活動では、「ペアへの感謝の時
間」を設定し、学年ごと創意工夫して、あら
かじめ手紙を書いておいたり、クラスで感謝
の会を計画したりして、ペアに感謝の気持ち
を表せるようにした。



2. 行事（提言1、6、7、8）

（1）1年生を迎える会

全校のみんなで1年生を歓迎し、学校の楽
しさを伝えるという目標で、1年生を迎える
会を行った。「もうじゅうがりゲーム」や「学
校クイズ」では、異学年が関わり合う場が設
定でき、上級生が下級生に声を掛ける姿や、
手を取って協力し取り組む姿があった。



（2）陸上選手を励ます会、親善音楽会出場
者を励ます会

児童会を中心に、陸上選手を励ます会や親
善音楽会出場者を励ます会を計画し実行した。

陸上選手を励ます会では、5年生と6年生
の代表がリレー対決を行った。下級生は6年
生の力強い走りを目の当たりにして、自分た
ちも6年生のようになりたいと憧れを抱く機
会となり、6年生は励ましの言葉や全校から
のエールを受け、意識が高まる会となった。

親善音楽会出場者を励ます会では、出場す
る4年生が全校の前で歌声を披露した。全校
児童は、美しい歌声に練習の成果を感じると
ともに、4年生は励ましの言葉を聞き、学校
代表として出場する自覚をもてた。



3. 児童会（提言1、4、5、6、7）

（1）児童集会

第1回の児童集会は、「どこでもだれにでも
自分からピアサポート」というテーマで行わ
れた。「間違い探しゲーム」と銘打った劇を通
して、ピア・サポートとして正しい行動は何
か、全校児童が考える機会となった。

第2回の児童集会は、「ペアさんとの絆を深
める」というテーマで行われた。校内の各教
室をペアで周り、協力してゲームをすること
の中で、ピア・サポートを実践し広げていっ
た。ゲームの合間には、高学年の児童が低学
年の児童に対して、「順番を守って並ぶよ。」
「静かに座って順番を待とう。」など、マナー
を伝え、低学年も素直に聞き入れることがで
きていた。ゲームを楽しむだけではない、異
学年ならではの関わり合いができていた。



(2) あいさつ運動

今年度児童会では、「あいさつもピアサポート」を合い言葉に、毎朝あいさつ運動を行った。昨年度から取り入れたマスコットキャラクター「ピアうさちゃん」も昇降口に立ってあいさつ運動を行うことで、登校してくる児童にも自然と笑顔があふれた。

ピアうさちゃんが一緒にあいさつすることで、あいさつもピアサポートの一つであるということを児童は実感できた。



(3) 感謝の期間

1月の始業式で、3学期は学校の先生や友達、地域の方など様々な人にありがとうの気持ちを伝える「感謝」の期間であることを、児童会が全校生徒の前で話した。

様々な人に感謝の気持ちを伝えるために、感謝のメッセージカードを書き、「感謝の木」に貼り付けて花を咲かせることで、感謝の気持ちを表すようにした。

一人で何枚もメッセージカードを書く児童もあり、一年間のピアサポート活動が名実ともに花を咲かせていると感じた。



3 本年度の成果と課題

本年度も、昨年度と同様、計2回の児童集会やペアグループ活動を行い、葉梨小学校の児童にはピアサポートの意識が更に浸透してきている。今年度は、児童会の常時活動にあいさつ運動を取り入れたことも、全校児童にピアサポートが広まるきっかけになっていた。ペア活動では、上級生と下級生が仲良く遊ぶだけでなく、マナーやルールを伝える場面も見られた。

また今年度は、年4回、学級活動の中で、人間関係プログラムを活用した授業を取り入れた。4月のクラスづくりに関わる仲間づくりの活動や、相手が気持ちよく話ができる「聞き方」についての授業などを通して、友達とのかかわり方を学んだり、見直したりする機会となった。

ただ、ピアサポートを浸透させるための取り組みを行う一方で、児童が取り組みを振り返る機会が少なかった。ペア活動の後に振り返りカードを書く機会を設けることなどで、ピアサポート活動の足跡を残していきたい。

4 来年度に向けて

集会でピアサポートについて取り上げたり、帰りの会で友達のピアサポート見つけを行うクラスが増えたりするといった手立てにより、葉梨小学校では、児童の中に着実にピアサポートという言葉が根付いてきている。ピアサポートの浸透によって、本校の重点目標である「心つよく心やさしく生活する子」の「心やさしく」の面は着実に成長している。

来年度は「心つよく」の面の成長を図っていきたい。その為にも、児童一人一人にピアサポートを定着させていくことが一つの手立てとなる。ペア活動後の振り返りカードの記入や教師からの声かけなどによって、児童のピアサポートを積極的に価値付けしていく。

また、本年度取り組んだ人間関係作りプログラムの実践を充実させることで、学校全体の雰囲気だけでなく、一人一人の心つよさも成長させていきたい。